

異常気象分析検討会 平成26年度定例会
2015.2.23

今年度の活動報告 来年度の活動計画

平成26年度の活動報告(その1)

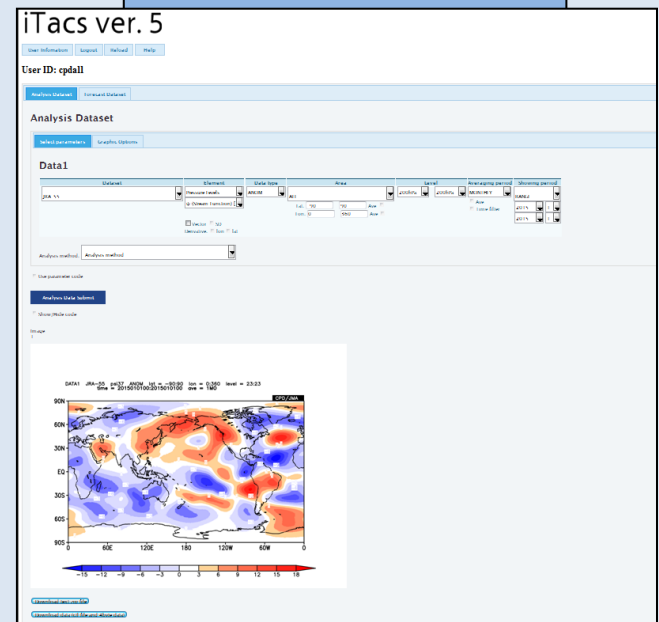
- 異常気象に関する情報の発表にあたって、要因分析について検討会委員の協力を頂いた。
 - ＜5月＞米国カリフォルニア州の少雨・干ばつ、
 - ＜9月＞臨時会 2014年8月の不順な天候
 - 地球温暖化と強雨の発生頻度の関係について初めて言及した。
- Web会議システムの利用を作業部会委員へ拡大。気候系診断会議への参加が可能になった＜5月＞
- 異常気象分析の高度化等について、検討会委員及び作業部会委員と意見交換を行った。
 - ＜11月:京都＞

● 異常気象分析ツール(iTacs) Ver.5の開発

- ・2015年春頃に新バージョンを公開予定。
- ・ユーザーインターフェースの改善(Ruby on Railsの活用)
- ・GrADSの最新バージョン(ver.2.1)の採用。より滑らかなで綺麗な図が作成可能。
- ・アンサンブル予報データのハンドリングが可能
 - アンサンブル平均、スパゲティダイアグラム、スプレッドの表示等

(※北海道大学堀之内先生らの電脳Ruby(GPhys)を利用)

iTacs Ver.5 の画面例



● LBM実験の拡充

加熱強制だけでなく、渦強制も加えた実験を毎月実施し、気候系診断会議等で使用。

平成27年度の活動計画

● 次期委員の委嘱

＜6月：分析検討会、9月：作業部会＞

● 分析Webの拡充

- ・岩崎委員提供による寒気流出解析
- ・JRA-55を用いたENSO統計資料の掲載
- ・LBM実験結果の拡充(仮想熱源に対する応答)

● iTacsの改良

● 分析検討会の開催

3月頃に定例会

異常気象発生時に臨時検討会

【参考】異常気象分析検討会の任務

- (1) 異常気象に関する気候学的な分析及び調査の実施
- (2) 気象庁が発表する異常気象の発生要因等に関する情報への助言
- (3) 異常気象に関する気候学的な研究成果の気象庁での活用に関する提言